

平成 22 年度

▼ 地域活性化システム論

10 月 16 日～12 月 18 日(土曜日 13 時～ 全 5 日間)

対象者：岡山大学学生・地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の方

目的：農村地域の活性化に、農学がいかにかわるべきかについて、当事者の自発的な協働として最近取りあげられている「新しい公共」という視点から、人や地域の絆の再編、再構築について、考察を深める。また、農学から見た福祉の取り組みや農学から見た産業としての農業とバイオマス利用との関係およびその現状を実践の現場からの情報に基づいて把握し、産官学民がそれぞれどのようにアプローチできるか、参加者全員で考えて行きたい。

第5回12月18日（土）13時～

—農とバイオマス（2）—

森林・林業を通じた地域の活性化

平成22年12月18日（土曜日）開催の『農とバイオマス（2）』では、本学学生・大学院生・県内外の自治体関係者・民間企業の方・農林業に関心のある一般の方など様々な分野から70名の方にご参加を頂きました。

I・・・「西粟倉100年の森」構想、森は宝の山！

株式会社 西粟倉・森の学校 代表取締役： 牧 大介

西粟倉は岡山県北東に位置し、中国山脈の南斜面にひらかれた谷間の山里で、人口1600人ほどの小さな村です。全国的に市町村合併が推進される中、2004年西粟倉村は合併せず自立の道を歩む決断をし、先人たちから受け継いだ森—その森の抱える問題—を未来の子や子孫のために、村ぐるみで挑戦する決意をしました。

2009年4月より開始された‘百年の森林創造事業’と‘森の学校事業’の二つにより構成された『百年の森林事業』を実現させ、西粟倉村にかかわる全ての人がつながり、発展させるための、仕組みづくりや取り組みについて講演いただきました。



II・・・ 地元の力で森林資源の利用と地域活性化

NPO法人 土佐の森・救援隊 事務局長： 中島 達雄



高知県は東西に長い四国の南部、『海の国』のイメージが強いが、山地率は89%にも及び、そのほとんどが海の近くまで山が迫る典型的な山国です。反面、林業従事者は減少し森林が荒廃していく中、中島氏が事務局長を務める「救援隊」は山主や会社員ら30人で結成され、担い手の育成や小規模林業に様々な提言を行い、「C材で晩酌を！」を合

い言葉に木質バイオマス利用システム構築を展開し、地元の力で森林資源の利用と活性化を推進しようとして取り組んでいらっしゃいます、その活動について講演いただきました。

Ⅲ・・・ 真庭システムを通じた地域活性

真庭森林組合 代表理事 組合長： 星原 達雄



真庭市は、岡山県の北中部・中国山地のほぼ中央に位置し、東西に約 30Km、南北に約 50Km に広がる鳥取県と接する市です。管内森林面積約 71,733ha 林野が約 80%を占めており、その半分以上が人口林で林業生産活動が盛んな地域でもあります。永年林業に携わっている星原氏は、林地残材の有効活用、バイオマスエネルギーの地産地消を目指して『真庭システム』を構築されました。地域の連携システムに関しての様々な取り組みと今後の展開を講演いただきました。

Ⅳ・・・ パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、講師の皆様に加え、岡山県内の森林・林業及び木材加工に博識のある方や、地方の環境関連産業・バイオ関連産業などに熟知している方にもご参加いただき、今回のコーディネーター、嶋准教授との活発な議論が行われました。

今後も、現場からの生の情報を得て、山を守り、地域に眠る資源を有効に利用して持続可能な社会の形成に向けて、「バイオマス」に関する情報並びに人的交流が深まるよう、新たな課題の発掘を進めていきたいと考えます。

平成 20 年度より開催されている『地域活性化システム論』は、23 年度も後期開講予定です。本学学生はもちろん、地域活性化に関心のある企業・自治体・NPO 団体・県民・市民の皆様にも受講いただけます。

詳細が決まり次第に、農学部 HP にて発表いたしますのでご期待ください。